

令和2年度第4回石巻市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議 会議録

■日 時 令和2年10月28日（水） 18時～19時30分

■出席者 別紙のとおり

■会議内容

1 会議開催について

委員数20名に対して15名が出席しており会議は成立。

2 開会のあいさつ

(会長)

だんだん気温が下がり、インフルエンザが流行る季節になるとともに新型コロナウイルスの収束がまだ見えない状況にある大変な中、会議に足を運んでいただき誠にありがとうございます。前回の会議では60以上の項目に評価をしていただきましたが、その結果を市から報告していただきます。また、先日、石巻市がSDGs未来都市に選定され、これから面白い事業の展開が期待されますが、そのことについて報告していただきます。本日も忌憚りの無い御意見、中身の濃いやりとりをしていただければと思います。

3 議事

(1) 報告事項

まち・ひと・しごと創生総合戦略の評価検証結果について

(資料1～5：SDGs地域戦略推進室より説明)

(委員)

資料1のNo.57について、公立保育所等の統廃合と今後の石巻地区の幼児教育のプランニングとの関係で、なぜ統廃合する必要が生まれてくるのか。また、統廃合することがどのように待機児童数の減少に繋がるのか。

(事務局)

老朽化が進んだ施設もあることから統廃合することにより施設の維持管理経費が削減されるという一面もあるが、人材の適正配置並びに民間保育所等との役割分担という効果が考えられる。例えば、民間保育所では健常児を中心に預かり、公立保育所では障害児などを多く預かるようにする。そのような役割分担をする中で、公立保育所等を統廃合することにより、人材の配置転換が可能となり手厚い障害児保育を実現するということが考えられる。

(委員)

子どもの発育状況や健康状態を含めての保育所の役割を分担していくというところだと思うが、市の財政や人員の問題だけではなく、教育の問題として深い問題であると思うので、市としてよく議論していただきたい。そういった中で、保育所等の統廃合や人員の

整理を行いながら、幼児教育の充実を図っていった欲しい。

(会長)

少子化問題、出生数に大きく関わってくるものなので丁寧に取り組んでいただきたい。

(委員)

資料4のDMOについてリボンアートフェスティバルに関する回答を見ると、これからは継続して実施するのか、継続するかどうかまだ決まっていないのか読み取りにくい、基本的な姿勢はどうなっているのか。

(事務局)

現在新型コロナウイルスの影響により全国から人を呼び込むイベントを開催するというのが困難な状況にあることから、このような回答となっている。

(会長)

リボンアートフェスティバルは当初から10年間という期限付きイベントとなっている。民間の立場からすれば、このような多くの方に来ていただけるイベントは規模や形を多少変えたとしても10年間実施する中で培った人脈等を活かして民間なりに続けていく努力が必要であると考えている。

(事務局)

担当課からの回答の補足として、新型コロナウイルスの影響があり積極的にイベントを開催できない状況にある中で、同文中に大型客船の受入れについて記載しているように、大型客船の受入れが主眼にあり、落ち着いた時に開催するといった表現になっていると思われる。市としてはリボンアートフェスティバルやツールド東北といった期間限定のイベントを開催するにあたっては、市民の盛り上がりや民間の方の協力が必要不可欠であることから、関係団体と連携しながら、様々な手法で人を呼び込むことの検討や実施をしていかなければならないと考えている。

(委員)

基本目標における数値目標の達成状況について、合計特殊出生率が下がっており、あまり上向きの結果ではないように見える。この結果をきちんと考えていく必要があるのではないかと。

(事務局)

基本目標1と2については目標に近づく形で推移しており上向きの結果だと思うが、基本目標3と4については目標から離れるように推移しているものもあることから、結果を踏まえて事業の見直しや強化について検討していく必要があると思う。

(委員)

基本目標3と4が厳しい状況にあるといっても、全てが繋がっているのでないかと思う。難しいとは思いますが結果が厳しいところのみを変えるのではなく全体の繋がりを考えながら変えていく必要があるのではないかと思う。

4 その他

(1) SDGs未来都市計画について(資料6、7:SDGs地域戦略推進室より説明)

(委員)

東松島市は2018年度、石巻市は今年度未来都市に選定されたことにより、隣接2市が未来都市に選ばれている状況は、情報共有や連携という点から考えて非常に強みであると思う。石巻圏域としての取組や連携等は何か考えているか。

(事務局)

隣接した自治体が未来都市に選定されているという例は全国的にも少なく、強みであると認識している。女川町は未来都市ではないものの、既にSDGsに取り組んでいるという認識だと伺っている。SDGsは単独で取り組むよりも連携して取り組んだ方が高い効果が得られると考えられることから、2市1町の石巻圏域で連携してSDGsの取組を進めていければ全国でも稀な事例になることが期待できる。

(委員)

コミュニケーションロボットについて、高齢者だけでなく保育施設に設置するなど、子どもたちも活用できるようにしてほしい。

(事務局)

計画書上は高齢者支援ということで記載しているが、IT人材の育成という視点で考えると多くの人に興味を持っていただく必要があると思うので、指摘いただいた点を考慮しながら取り組んでいきたい。

(委員)

石巻市の不登校出現率は比較的高いことから、引きこもりの子どもへの支援や障害を抱えた子どもへの支援など、コミュニケーションロボットの活躍場面は様々にあるのではないかと思う。ぜひ学校教育と連携を図り、質の高い教育に取り組んでいただきたい。

(事務局)

まずは高齢者支援という計画に基づいた取り組みを始めるが、後に応用という形で展開を図っていきたい。

(副会長)

パソコンに使い慣れておりデジタル機器の操作が得意な人でも年齢を重ねるとともに、目が見えなくなり説明書が読めない、スイッチのオンオフがわからないといった、これまで当たり前できていた操作ができなくなることがある。そういったちょっとした落とし穴に配慮しながら取り組んでほしい。

(事務局)

十分に配慮して取り組んでいきたい。また、事業を進めていく中で様々な課題が生じると思うが、その都度改善を図っていく。

(会長)

ユーザーフレンドリーがキーワードになってくると思うので、そういった視点をもつ

ていただきたい。

(委員)

バス停までの移動手段としてグリーンスローモビリティといった車を活用するのであれば、バス停付近に駐車場等が必要なのではないかと。

また、今回の内容とは別になるが住んでいるところからまちなかへ、公共交通を利用して移動しようとする、1時間以上かかってしまいとても不便に感じているので、そういった点も検討いただきたい。

(事務局)

グリーンスローモビリティは外出する本人が運転するのではなく、運転手の方がいて配車をして利用していただく予定である。

公共交通が使いにくいために利用者が減り、利用者が減ることで公共交通の便数も減るといふ負のスパイラルが起きている。国からは地域の移動資源を全て網羅した上で交通計画を策定する旨が示されていることから、現在見直し中の交通戦略についても、今回の未来都市計画に係る未来技術やグリーンスローモビリティを活用した移動手段を位置づけていく。そのような取組を進めながら、利用者の利便性や事業者の採算性、運賃の適切な設定等、きめ細やかなニーズ調整を図りながら交通計画を作っていくこととしている。

(副会長)

具体的な取組や地域が決まったら、関係する地域だけではなく全市的に周知を図る必要があると思う。特に今回はグリーンスローモビリティということで車に乗る多くの方の理解や協力を得なければ、普及していくことは非常に厳しいのではないかと。

(委員)

当該事業について、3,000万円の補助を受けていることは理解したが、それ以上に費用がかかる取組であると思う。おおよそで良いので、どの程度かかる見込みがあるのか。

(事務局)

1億5,800万円ほどの事業費を見込んでいる。3,000万円の補助金に加えて、地方創生推進交付金を活用して実施することとしている。

(委員)

この事業のスケジュールはどのようになっているのか。また、普及啓発はどのように実施していく予定か。

(事務局)

7月に国からの選定を受けたところであるが、既に一部事業については契約を締結し事業を実施している。来年度からは市内でもグリーンスローモビリティの生産ができるよう進めていきたい。普及啓発については、まずは職員がSDGsバッジを着用するなど多くの人の目に触れる機会を作ることから始めている。また今年度は課長補佐級以上の市職員に対し、SDGsに関する研修を実施することとしており、市役所内部から普及さ

せ、それを市民の方に展開していきたいと考えている。そのほかに市民向けフォーラムの開催も検討しているが、新型コロナウイルスの状況を見ながら判断していく。

(2) 次期総合戦略について（資料8：SDGs地域戦略推進室より説明）

(委員)

基本目標3に設定している「学校が楽しいと感じている生徒の割合」は、「学校が楽しいと感じている児童生徒の割合」ではないかと思うので、確認していただきたい。また、「学校が楽しいと感じている児童生徒の割合」は状況によって回答が変わりうるものなので非常に曖昧な指標であると思われることから、現行の総合戦略に位置づけている「授業が分かったと感じている児童生徒の割合」の方が根拠が明確であり良いのではないかと思うので、検討していただきたい。

(事務局)

指標は検討段階のものであることから、いただいた意見を踏まえながら今後内部で検討及び調整を進めていく。

(委員)

コロナ禍で、石巻ならではのコロナ対策を戦略にするようなことはできないか。例えば、テレワークが普及していることに伴い地方への移住も話題になっていることから、石巻の住みよさをPRし移住を促すような内容の記載ができれば良いのではないか。

(事務局)

コロナとの共生は今後も続く課題であると認識している。今回は総合戦略を抜粋して示しているが、基本構想や基本計画の中にコロナ対策や新しい生活様式に対応した取組等の要素を散りばめている。

(副会長)

各課からの質問に対する回答を見ていると、ホームページに掲載した等の記載があるが、ホームページに掲載して終わりではなく、いかに検索がヒットするかといった掲載後のことを十分に考えて取り組んでほしい。

移住コンシェルジュの2名のうち1名の方が変わっていた。相談をしてきた方からすると変わってしまったことに不安を覚えることもあると思うので、引継ぎ等をきちんと行ってほしい。

コロナ禍を乗り越えていくために、国、商工会議所、市など様々な方による支援をいただいております一方、事務の煩雑化や現金の不足等の課題も起きている。もし今後こういった事態がまた起きた時に、事務を一元化すること等はできないのか。

(事務局)

情報発信については御指摘のとおり、どのようにすれば多くの人の下に情報を届けることができるのかを全庁的によく考えていかなければならない課題であると認識している。

コロナ対策については、石カラプロジェクトは既に実施されていた施策の反省点を踏まえて始めたものである。各施策において、実施主体が異なることから事務がそれぞれ発生してしまうことは致し方ない面もあるが、市主体の施策において事務の煩雑化を防いだり、事務の統一化を図ったりという工夫をしていきたい。

(会長)

コロナ対策として様々な支援策があるが、インターネットを使えない人は情報の入手や支援の利用が難しい状況にある。委員の皆さんは会議の場で様々な情報を得ることが出来るので、インターネットが苦手な方等に情報を提供や手助けをしていただければと思う。

5 閉会あいさつ

(副会長)

今回も長時間にわたりありがとうございました。5年6か月やってきた会議も残りわずかになっています。体調には気をつけて次の会議でもお会いできればと思います。大変ありがとうございました。

石巻市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議名簿

(令和2年10月28日)

No.	氏名	所属	備考
1	安住 栄一	牡鹿地区住民代表	欠席
2	阿部 紀代子	コンパクトシティいしのまき・街なか創生協議会	副会長 出席
3	荒木 裕美	NPO法人 ベビースマイル石巻	出席
4	伊藤 桂子	桃生地区住民代表	欠席
5	井深 修一	株式会社七十七銀行石巻支店（代理：村上様）	出席
6	葛西 すめほ	石巻市町内会連合会女性部会	出席
7	木村 美保子	NPO法人 いしのまきNPOセンター	欠席
8	後藤 宗徳	一般社団法人石巻観光協会	会長 出席
9	西條 拓也	いしのまき農業協同組合	出席
10	佐々木 清勝	河北地区住民代表	出席
11	佐藤 秋子	いしのまき農業協同組合	出席
12	佐藤 清子	河南地区住民代表	出席
13	佐藤 尚美	北上地区住民代表	出席
14	須能 邦雄	石巻市水産振興協議会	欠席
15	高橋 真由美	雄勝地区住民代表	出席
16	中川 尚仙	石巻商工会議所	出席
17	芳賀 信幸	石巻市地域包括ケア推進協議会	出席
18	畑山 實	連合宮城石巻地域協議会	出席
19	松本 祐佳	一般社団法人 石巻青年会議所	欠席
20	横江 信一	石巻専修大学	出席

アドバイザー

	大岩 昇	総務部総務課 法制企画官	出席
--	------	--------------	----